

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：22702

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21530886

研究課題名（和文）中国西南少数民族の成人儀礼の社会化機能に関する比較教育学的研究

研究課題名（英文）Socialization Function of Coming-of-age Ceremonies of Minorities in the Southwest China: A Comparative Educational Study

研究代表者

金 龍哲（JIN Longzhe）

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：20274029

研究成果の概要（和文）：

中国西南の少数民族にみられる「子どもから大人へ」の移行をめぐる多種多様な儀礼は、成人集団に新しい成員を補充する役割を果たすと同時に、民族の文化を次の世代に伝承していく装置としても重要な意味を持つ。少数民族にとって、とりわけ自分の文字を持たない民族にとって、近代学校制度は必ずしも「民族自らの教育制度」として機能しないからだ。事実、民族の伝統や文化は「学校外の装置」によって伝承される。本研究では、4年間の現地調査を通して中国西南地域における成年儀礼の現状、成年儀礼が果たす役割と意義、成年儀礼の存続とあり方を巡る社会的力学の動向について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

Various ceremonies focusing on the transferring from kids to adults held by the minorities in the Southwest China not only play a role as the supplement of new members to the group of adults, but also function as an important equipment of transmission of racial culture to next generations. For minorities, especially for those with no written languages of their own, modern school system has not functioned as an educational system belonging to the ethnic minorities. In fact, racial tradition and culture are always transmitted outside the school system. This study, through four years of field work, examines the current situation, function and significance of coming-of-age ceremonies, and clarifies the continuation and social dynamic trend of such ceremonies held by the minorities in the Southwest China.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育社会学
キーワード：比較教育学

1. 研究開始当初の背景

「大人になれない若者」が取りざたされる中、臨床心理学者の河合は「永遠の少年」が増えた原因の一つとして「イニシエーションの欠落」を挙げた。イニシエーション儀礼の消滅によって、ある個人が根源的体験を持って大人に成ったことを自覚することが非常に困難になったとし、「現代社会におけるイニシエーションの欠落は、社会的、教育的に大きな問題である」と指摘する。成年儀礼は、教育制度の原型といわれるほど古い歴史を持つ、すぐれて教育学的課題である。しかし、エリアーデが「儀礼の消滅」を近代社会の特徴の一つとして挙げたように、成年儀礼は近代化の進展とともに衰退の一途をたどった。一部の地域に残っている成年儀礼も多くの場合、その存続が危ぶまれている。日本では自治体主催の成人式の形骸化や儀式における新成人の不作法が度々メディアによって取り上げられ、議論を呼んだ。

一方、中国では違う意味で成人式を巡る議論が活発化した。古代に存在した「冠礼」「笄礼」の教育的機能に着目し、「伝統文化の継承と発展」「青少年教育が抱える諸問題の解決」という視点から成人儀礼の制度化が議論されたのである。90年代に入ってから大都市を中心に「冠礼」「笄礼」が復活したところも少なくない。こうした中、西南少数民族の成年儀礼が注目されるようになった。地域によって、また民族によってその在り方が大きく異なり、近代化の波に晒されつつも、伝統的な成年儀礼を今に残している民族が少なくないのである。

2. 研究の目的

フォスター (Foster.S) らが開発した「ビジョン・クエスト」(Vision Quest)、教育学者潮木のいう「聖なる神話の再興」などは、河合と同様、イニシエーションの持つ潜在的意義を再発掘し、伝統文化と先人の知恵を現代に生かし、脱人格した教育、そして学校中心主義の弊害と限界を克服することを目指した主張と見ることが出来る。

本研究は、同様の主旨から中国西南少数民族における成年儀礼の歴史、儀礼の過程と内容、その役割と意義、儀礼の特質と変容及び位置づけなどを中心に、今日における成年儀礼の実態を明らかにし、学校中心主義化とグローバル化が進む現代の教育に対し、人間形成への多角的アプローチの必要性、文化的多様性の維持という視点による新たな教育の課題を提示することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、質的研究手法を用いた。具体的には雲南省、四川省、貴州省、チベット自治区、寧夏回族自治区に居住するチベット族、ミャオ族、ジノー族、プミ族、イ族、ヤオ族、モソ人、回族の八つの少数民族を対象とし、インタビューと参与観察を柱とした現地調査を実施した(計7回)。なお、現地調査は、日本文化人類学会、日本比較教育学会及び神奈川県立保健福祉大学の研究倫理規定を遵守して行った。調査対象、調査地域及び日程は以下の通りである。

第1回(2009.8.27-9.8):イ族(雲南省寧浪県拉比落村、浪放村)、モソ人(雲南省寧浪県海玉角村、落水村、泥鱸溝村)

第2回(2009.12.23-10.1.6):ヤオ族(雲

南省西疇県東瓜冲村、下福村)、ジノ一族(雲南省西双版納州基諾郷巴奪村、巴坡村)

第3回(2010.8.28-9.21):チベット族(青海省貴徳県河東郷辺都村、四川省丹巴県海龍村)、ミャオ族(貴州省従江県岜沙村、雲南省勐蜡県龍潭村)

第4回(2010.12.23-11.1.9)ミャオ(雲南省勐蜡県龍潭村、瑶族郷補角村)、ジノ一族(雲南省双版納州基諾郷巴奪村、巴亜村、ム卓村)

第5回(2011.8.2-8.29):チベット族(青海省貴徳県河東郷辺都村、四川省丹巴県中路郷)、イ族(四川省西昌イ族自治州芋旷村、雲南省寧浪県浪放村)、プミ族(雲南省寧浪県木底青村、温泉村)

第6回(2012.1.23-2.2):ミャオ族(雲南省勐蜡県龍潭村)、ジノ一族(雲南省双版納州基諾郷巴奪村、巴亜村、ム卓村)

第7回(2012.8.12-9.9):回族(寧夏回族自治区銀川市、靈武市)、チベット族(四川省丹巴中路郷)、ミャオ族(貴州省従江県岜沙村)、ジノ一族(雲南省双版納州基諾郷巴奪村、巴亜村、ム卓村)

4. 研究成果

1) 少数民族の文化は「学校外の装置」によって伝承される。

先ず、近代学校制度に主眼を置いた教育の役割は限定的であり、人間形成を巡ってより広域的で多角的視点によるアプローチを導入することの必要性が、様々な成年儀礼の事例によって確認された。「子どもから大人へ」の移行をめぐる慣行が、成人集団への加入資格を認定する儀式で表現されることは、中国西南の少数民族においても例外ではない。しかし、民族集団にとって、それは単に成員補充の役割のみならず、民族の文化を次世代に伝承する重要な装置と

して機能するところに大きな特徴を見ることが出来る。とりわけ、文字を持たない民族にとって、近代学校制度は「民族自らの教育制度」として機能しにくい側面があり、民族の文化は事実上、「学校外の装置」によって伝承される。成人式を含めた通過儀礼、部族の行事、村の祭りなどは、学校外で営まれる人間発達をめぐる民族の工夫であり、それぞれ民族独自の「振る舞い」や「癖」を反映させた「教育文化」である。少数民族の伝統文化の継承は、事実上、こうした「学校外の装置」が機能するか否かによって決まる。

2) 成年儀礼の存続を阻害する諸要因

西南の少数民族の成年儀礼は、急激な社会変化に伴ってその存続が危機的状況にある。成年儀礼の存続を脅かす要因は様々であり、一概には言えないが、とりわけ、近年、市場経済の浸透、都市化の進展、学校教育の普及、価値観の多様化、情報化やグローバル化などが背景にある。本調査に限っていうならば、伝統的な成年儀礼を完全な形で残し、民族の通過儀礼として実際に機能しているのはモソ人とプミ族のみで、ほかの民族の場合は、「完全消失」「一部の地域での残留」「内容、形式と意味の変容」「儀式の形骸化」等がみられ、全体的に存続そのものが危ぶまれる状況にある。伝統的な成年儀礼が機能しているケースを見ると、①まだ都市化が進んでいない農村部であること、②同一民族が集中居住していること、③民族の宗教と深いかかわりを持つこと、④儀式の内容と形式が現代の生活や価値観と抵触せず、ある程度、許容されていること、⑤担い手が現行の社会体制における組織でなく、家族或いは親族であること、などの特徴がみられる。

3) 成年儀礼の機能と位置づけ

成年儀礼の機能を一言でいうならば、既定年齢に達した少年少女を一定の儀式を通して成人集団への加入を認める「成員補充の機能」と要約することが出来るが、その内容と形式の重心の置き方によっては以下のように分類することが出来る。つまり、①民族の神話と歴史、価値観と共同体のルールなどを次の世代に教え伝える「文化伝承の機能」、②新成人を含め共同体の構成員が「従うべき秩序」や「伝統と権威の力」を参加者全員に定期的に叩き込む「秩序再現の機能」、③民族的アイデンティティを確認し、成員同士の結束と連帯感を強める「アイデンティティ維持の機能」、④成年儀礼を一種の文化資源と見なし、自己と他者の境界を形作る装置として位置付けて組み立てる「民族文化の表象機能」である。

4) 伝統文化の展望

成年儀礼の持つ上述の諸機能は互いに関連し、補完し合う性格のものであるが、多くの事例では儀礼の設計や表現において重点の置き方が異なる。近年、民族文化の表象装置としての機能が重きを増してきたことは注目に値する。成年儀礼が完全に消失した民族、あるいは極限られた地域にしか存在せず、必ずしもその民族の共通要素とはいえない民族においてもこのような傾向がみられる。勿論、多民族混住の西南において、エスニックグループが民族関係の歴史的文脈の中で、それぞれの文化装置を通して自己と他者を表象してきたことは今に始まったことではない。しかし、今日に見られる未曾有の社会変化の中で、民族的アイデンティティや帰属意識をめぐって、民族文化の創出や伝統文化の再定義は新しい意味を内包しているように見える。50年代から70年代にかけて行われた「民族識別工作」で確定した民族所属に異議を申し出た

り、あるいは与えられた民族名称に見合った文化的内実を新たに創出したり、あるいは他者との境界線を際立てることで差別化を図ったりするなど、目的と背景は様々と言わざるを得ないが、多民族から構成される生存競争の空間において、人々は自分の民族を自覚し、民族を語り、民族の文化的正当性を主張するためには、常に明確で斬新な表象を必要となる。その際、どの文化資源を民族的アイデンティティを特徴づける要素として活用するか、また、それらの文化資源を如何に組立てて表象し、自己と他者の境界を形作るかは重要な課題といわざるを得ない。成年儀礼の「見せ場」が観光の「眼玉商品」と開発されることはその具体例と見ることが出来る。観光化された儀礼が「伝統文化」としての完成度を高めて生き残る一方、観光客を引き付ける「見せ場」に乏しく、観光化されにくい儀礼は徐々に自然消滅していく。

「伝統文化の観光化」に対しては内外を問わず、常に厳しい視線が向けられる。しかし、「観光化」によって洗練され、完成度を高めた「文化」は世界中に無数にある。「観光化」は、文字を持たない小規模民族にとって、自らの文化と伝統を維持していくために残された唯一の手段かも知れない。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計6件)

- ① 金龍哲、モソ人は婚姻・家族制度を持たない民族か—異文化研究の座標軸を問う、査読有、神奈川県立保健福祉大学誌、10巻、2013、27-35
- ② 金龍哲、「伝統文化」の教育課程化の論理と課題、査読無、教育学研究紀要

(CD-ROM版) 2012、524-529

- ③ 金龍哲、成年儀礼の論理に関する比較教育学的研究、査読有、中朝韓日文化比較研究叢書、2010、368-376
- ④ 金龍哲、デーバがつなぐ伝統と近代—社会変動の中に迫られた民族の選択、査読無、平成22年度健康教育プロジェクト活動報告書、2010、26-46
- ⑤ 金龍哲、伝統と近代の対決—モソ人の母系制は「余命20年」か、査読無、ひろしま生涯教育、93巻、2009、11-17
- ⑥ 金龍哲、モソ人の母系制は『活きた化石』か—中国における進化主義家族史観の系譜—、査読有、神奈川県立保健福祉大学誌、6巻、2009、53-61

[学会発表] (計10件)

- ① 金龍哲、文化伝承の視点から見た中国西南少数民族の成年儀礼—消え去ったジノ一族の成人式を中心に、日本文化人類学会第46研究大会、2012 (広島大学)
- ② 金龍哲、教育課程における伝統文化の位置づけとその論理、中日教育研究協会第3回研究大会、2012 (創価大学)
- ③ 金龍哲、中国西南少数民族の成年儀礼の変容—民族文化の表象装置としての機能に注目して、日本比較教育学会第48回研究大会、2012 (九州大学)
- ④ 金龍哲、中国西南における少数民族の成年儀礼の現状—文化伝承の視点から—、アジア教育学会第6回研究大会2011 (こども教育宝仙大学)
- ⑤ 金龍哲、伝統と近代のWin-Win関係は可能か—日本における成人式の形骸化が示唆するもの—、中日教育研究協会第2回研究大会、2011 (中国使館教育処)
- ⑥ 金龍哲、「秩序再現の場」としての成年儀

礼—ヤオ族の度戒の教育学的考察、日本文化人類学会第45研究大会、2011 (法政大学)

- ⑦ 金龍哲、ヤオ族の成人式—文化伝承装置としての「度戒」—、アジア教育学会第5回大会2010 (九州大学)
- ⑧ 金龍哲、中国ヤオ族の「度戒」の成年儀礼機能の特徴—雲南省下福村での参与観察を踏まえて、日本比較教育学会第46回研究大会、2010 (神戸大学)
- ⑨ 金龍哲、成年儀礼研究における教育学的論考の系譜—モソ人の『タゲー』と『ヒゲー』の位置づけ、日本比較教育学会第45回研究大会、2009 (東京学芸大学)
- ⑩ 金龍哲、中国西南のモソ人の母系社会における成人儀礼—儀式の過程と論理に関する教育学的考察、日本文化人類学会第43研究大会、2009 (国立民族博物館・大阪国際交流センター)

[図書] (計3件)

- ① 金龍哲編、協同出版、教育と人間と社会、2012、198
- ② 金龍哲著、大学教育出版、結婚のない国を歩く—中国西南のモソ人の母系社会、2011、139
- ③ 金龍哲著、大学教育出版、東方女人国の教育—モソ人の母系社会における伝統文化の行方、2011、214

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金 龍 哲 (JIN Longzhe)

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：20274029

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし